

石田遺跡

長野県佐久市志賀石田遺跡発掘調査報告書

2007.3

森 田 松 助
佐 久 市 教 育 委 員 会

例 言

1. 本書は、森田松助が行う集合住宅建設工事に伴う石田遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査原因者 森田松助
3. 調査主体者 佐久市教育委員会
4. 遺跡名及び所在地 石田遺跡 (S I S) 佐久市志賀字辻畠5942-1
5. 調査期間及び面積 調査期間 平成18年10月30日～平成19年3月31日
調査面積 26.4 m²
6. 調査・報告書作成担当者 富沢一明
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
調査にあたっては、森田松助氏の御理解により多くの成果を上げることができた。
感謝の意をこめてここに記したい。

凡 例

1. 遺構の略記号は、住居址(H)・掘立柱建物址(F)・土坑(D)・溝状遺構(M)である。
2. 掘図の縮尺は次のとおりである。下記以外の物については掘図中にスケールを示す。
竪穴住居址・掘立柱建物址1/80 カマド1/40 土坑1/60 土器1/4 石器1/4・1/3
3. 遺構の海拔標高は各遺構ごとに統一し、水系標高を「標高」として示した。
4. 土層の色調は、1988年版『新版 標準土色帖』に基づいた。
5. 調査区グリッドの間隔は4×4 mに設定した。
6. スクリーントーンの表示は以下の通りである。

地山断面



須恵器断面



黒色処理・施釉



焼 土



貼 床



目 次

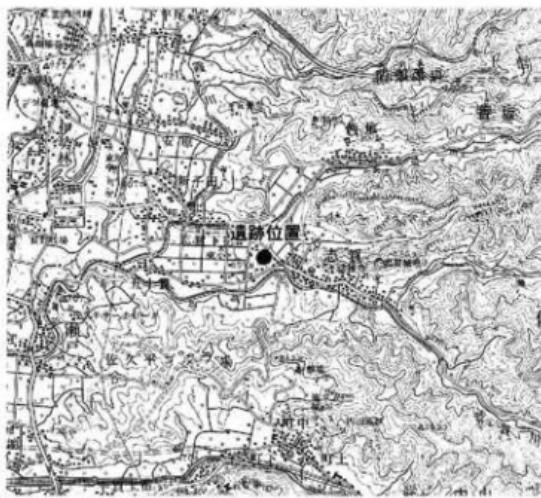
例言・凡例・目次

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

- 1.立地と経過
 - 2.調査体制
 - 3.遺構と遺物の詳細
 - 4.基本層序
- ### 第Ⅱ章 遺構と遺物
- 1.竪穴住居址
 - 2.掘立柱建物址
 - 3.土 坑
 - 4.溝状遺構
 - 5.ピット

写真図版

抄 錄



第1図 石田遺跡位置図 (1:50000)

第Ⅰ章 発掘調査の経緯

1. 立地と経過

石田遺跡は佐久市志賀に所在する。遺跡は群馬県境に連なるいわゆる関東山地北西部から西にのびる山地末端の沖積上に立地する。遺跡の北方300mには香坂川が、また南200mには志賀川が流れ、いずれも山地から流れ出た河川が度々流路を変え、谷地を埋めた小規模な沖積地を形成している。この沖積地の一部分にはかつて浅間山噴火に伴う軽石流によって志賀川が堰き止められ「志賀湖」が存在したことが戦国期の絵図に描かれている。その後戦国末期から江戸初期にかけて堰き止められていた部分の開削作業が行われ、水田が開かれたと伝えられている。今回の調査地点西方200mにも通称「船着き岩」と呼ばれる岩山が存在するが、今回の調査成果からは遺跡が湖岸に立地していた確証は得られなかつた。

今回、集合住宅建設のため森田松助氏より予定地の遺跡有無について照会があった。佐久市教育委員会では開発対象地に石田遺跡が存在することを回答し、試掘調査を行うこととなつた。結果、試掘調査により構造が発見されたため、保護協議の後に記録保存目的の発掘調査を行う事となつた。

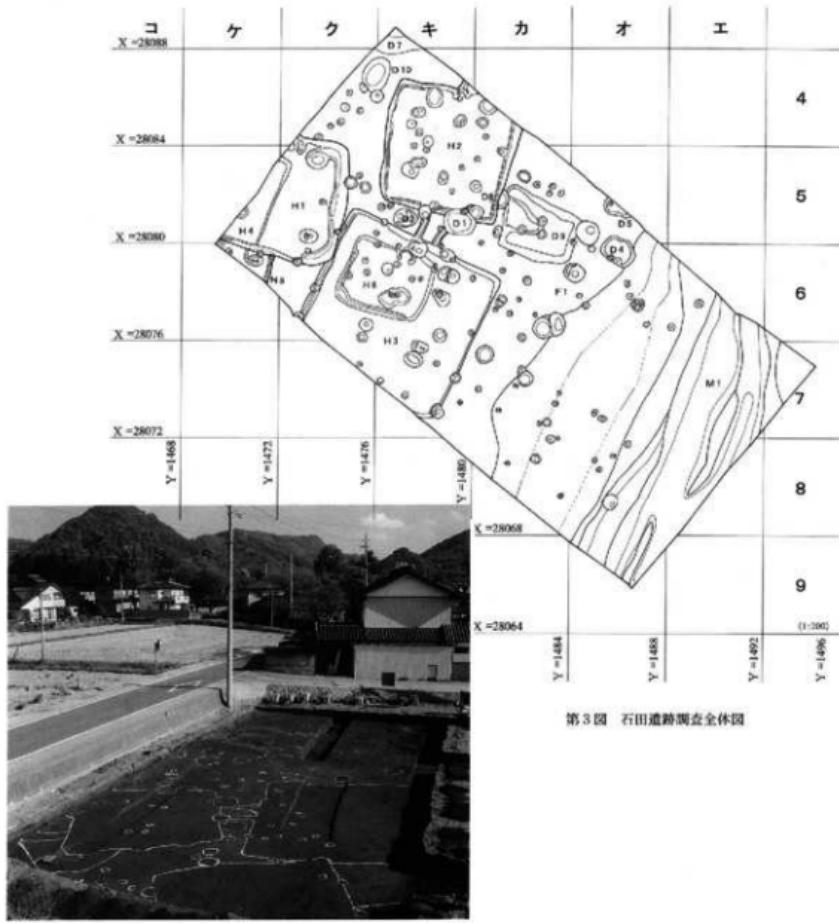
周辺部の遺跡としてはこの沖積地を取り囲むように数多くの遺跡が存在する。まず旧石器時代の遺跡としては遺跡東方の駒込集落の上、標高848mに存在する天神小根遺跡がある。細石刃を含む石器群1067点が出土している。年代は約14000年前と考えられている。次に縄文時代の遺跡として丘陵上に勝負沢・中条峯・寄山遺跡が展開する。各遺跡からは縄文前期～中期の集落址または包含層からはおびただしい数の土器・石器群が出土している。弥生時代の遺跡としては本遺跡西方1.5kmに戸坂遺跡が存在する。数次の調査結果で弥生後期の集落址及び環濠が検出されている。古墳時代から平安時代の集落は戸坂遺跡の東方700mに存在する四ツ塚遺跡がある。また古墳群も石田遺跡東方の山裾に本郷古墳群・小倉塚古墳群等いずれも横穴式石室を内包する古墳が存在する。これらの遺跡はいずれも先に述べた「志賀湖」の水位には関係のない高所にあり、志賀地籍において香坂川や志賀川の氾濫の影響を受けたであろう場所の発掘調査は今回が初めてとなつた。



第2図 石田遺跡周辺遺跡位置図 (1:15000)

2 調査体制

| | | |
|-------|----------|----------------------|
| 調査主体者 | 佐久市教育委員会 | 教育長 三石 昌彦 |
| 事務局 | 社会教育部長 | 柳沢 義春 |
| | 文化財課長 | 中山 悟 |
| | 文化財調査係長 | 高柳 正人 |
| | 文化財調査係 | 林 幸彦 須藤隆司 小林真寿 羽田野卓也 |
| | 神津 格 | 富沢一明 上原 学 出澤 力 |



第3図 石田遺跡調査全体図

石田遺跡近景（志賀駅方面を望む）

調査体制

調査担当者

| | | | | |
|-------|------|------|-------|-------|
| 富沢 一明 | 橋詰勝子 | 橋詰信子 | 小林よしみ | 広瀬梨恵子 |
| 浅沼ノ江 | 岩崎重子 | 小林妙子 | 萩原宮子 | 清水澄夫 |
| 清水律子 | 井出孝子 | 柳田晴美 | 春原圭介 | 春原幸子 |
| 横尾敏雄 | 佐藤瑞希 | 齊藤恵季 | 田中ひさ子 | 堺 益子 |

3. 遺構と遺物の詳細

| | | | | |
|--------|-------------|-------------|----|----------|
| 遺構 | 堅穴住居址 | 6軒（古墳～平安時代） | 遺物 | 須恵器・土師器 |
| 土坑 | 7基 | | | 陶磁器類（青磁） |
| 掘立柱建物址 | 1棟 | | | 石器 |
| 溝状遺構 | 1本 | | | 石製紡錘車 |
| ピット群 | 115個（古代～中世） | | | |

4. 基本層序

今回の遺跡調査対象地は香坂川と志賀川が形成した冲積地に位置し、尚かつ周辺の土地利用状況をみると遺跡周辺のみ畠地として利用されているため微高地を形成していると考えられる。このような事から遺跡の基本層序はⅢ層に分かれ、第1層は畠地及び水田耕作土。第Ⅱ層に黒褐色土が薄く形成され遺物も混入するが、遺構確認には第Ⅲ層の黄色土で、二次堆積ローム土で粘質化したシルト層であった。Ⅲ層下は人頭大の砂利になる部分があった。特に試掘調査の結果、今回調査した範囲の南側は第Ⅲ層の堆積がなく、耕作土が厚く堆積した下はいきなり砂利層となった。



第4図 石田遺跡試掘調査全図



遺構検出状況



遺構削り下げ状況

第Ⅱ章 遺構と遺物

1. 穴住居址

(1) H1号住居址

本住居址は、クー4・5・6、ケー5・6Grに位置する。残存状態は西側1/3が調査区域外となる他は良好である。重複するH4号住居址、H5号住居址の内、本址が一番新しい。形態はほぼ方形を呈する。規模は検出北壁2.10m・検出南壁4.48m・東壁4.70mで、壁高は東壁中央で33cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを示す。床面積は検出部で14.7m²を測る。床は住居中央部が特に硬質で南側はH4号住居址が重複しているためか軟質であった。貼り床の厚みは最大で22cmを測る。壁溝は東壁を巡るように検出され、北東コーナーと南東コーナーで一部曲がっている。規模は幅約40cm前後で、深さは4~11cmを測る。柱穴は3箇所検出され、P1~P3が主柱穴と考えられる。ピットの規模はP1が径76cm・深さ71cm、P2が径60cm・深さ41cm、P3が検出部分で径58cm・深さ63cmである。住居址の掘り方は中央部分が高く、壁際は一段低くなる掘り方で、一部調査区域外となるが円形の土坑状の掘り込みが検出された。この円形の上坑覆上には焼土が混ざり明らかに住居址貼り床の土とは異なるが、上面は顕著な硬質面が確認でき、床として利用していたと判断できた。

カマドは北壁にあり、袖部は黄色の粘土により構築されていた。火床部はあまり焼けておらず焼土が8cmほどの厚さで検出されたのみであった。カマド脇に貯蔵穴と考えられる掘り込みが検出された。壁溝につながるような状況で、規模は長軸95cm・短軸68cmを測る。

出土遺物は少なかったが覆土を中心に出土した。1は須恵器有台杯で住居址北東コーナー部で壁際より落ちたような状態で床面より9cm浮いて出土した。2は須恵器蓋でP1より出土した。内側に返りの無いタイプであり、全体に生焼けのような軟質感がある。3は須恵器高杯の脚部で、脚部分は端部を欠損するがほぼ完形である。出土位置はカマド前で、出土層位は床面より2cmほど浮いた状態であった。4は上師器杯であり、覆土中からの出土である。5は上師器甕で、いわゆる「武藏甕」と呼ばれるタイプのものである。6は須恵器甕で外面に平行タタキがある。7は砥石で、4面を使用しており、広い2面には中央に敵意痕が確認できる。

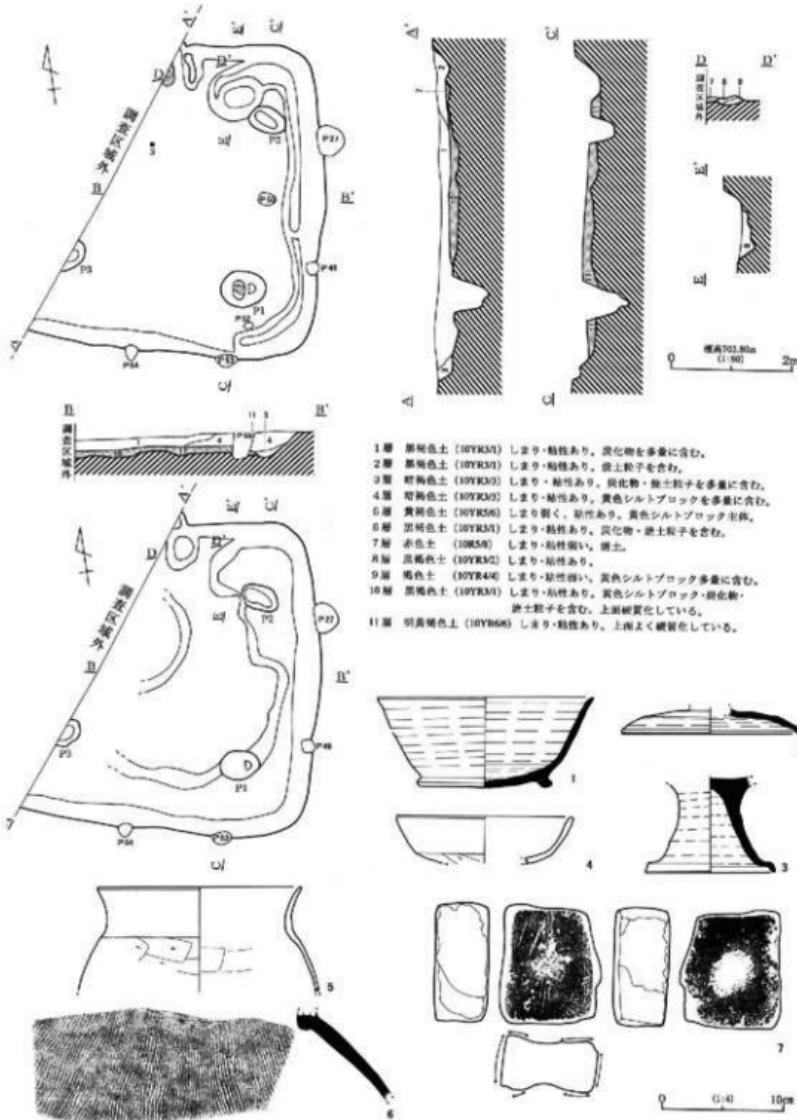
本住居址はこれらの出土遺物より奈良時代中葉の所産と考えられる。

| No. | 種別 | 形 型 | 規 模 | | | 成 分・調 查・文 字 | | | 考 | 馬上作業 |
|-----|-----|-----|---------|--------|-------|-------------|---------------------|--------------|------|------|
| | | | U(m) | 或(m) | 横幅(m) | 内 面 | 外 面 | | | |
| 1 | 須恵器 | 有台杯 | 17.8 | 11.0 | 7.4 | ロクロナゲ | ロクロナゲ-底面4枚ヘラケズリ-台高付 | 完全丸脚 | 1メ | - |
| 2 | 須恵器 | 蓋 | (1.6) | - | - | ロクロナゲ | ロクロナゲ-大井鉄山焼-ヘラケズリ | 円筒直脚 | P1 | - |
| 3 | 須恵器 | 高杯 | - | 10.6 | - | ロクロナゲ | ロクロナゲ | 完全丸脚 | 1メ | - |
| 4 | 上師器 | 杯 | (3.4.5) | (11.2) | - | ナゲ | ロクロナゲ-式部ヘラケズリ | 脚丸直脚 | 1メ | - |
| 5 | 上師器 | 甕 | (10.0) | - | - | ハラナゲ | ハラナゲ | 円筒直脚 | 0.5メ | - |
| 6 | 須恵器 | 甕 | - | - | - | 当身瓶 | 当身瓶 | 断面写真(底付) | 1メ | - |
| No. | 種別 | 形 型 | 規 模 | 成 分 | 横幅 | 内 面 | 外 面 | 所 貫 | | 出土位置 |
| 7 | 砥石 | - | - | 9.8 | 8.3 | 4.5 | 580.00 | 9面半、2面に敵意痕あり | - | 0メ |

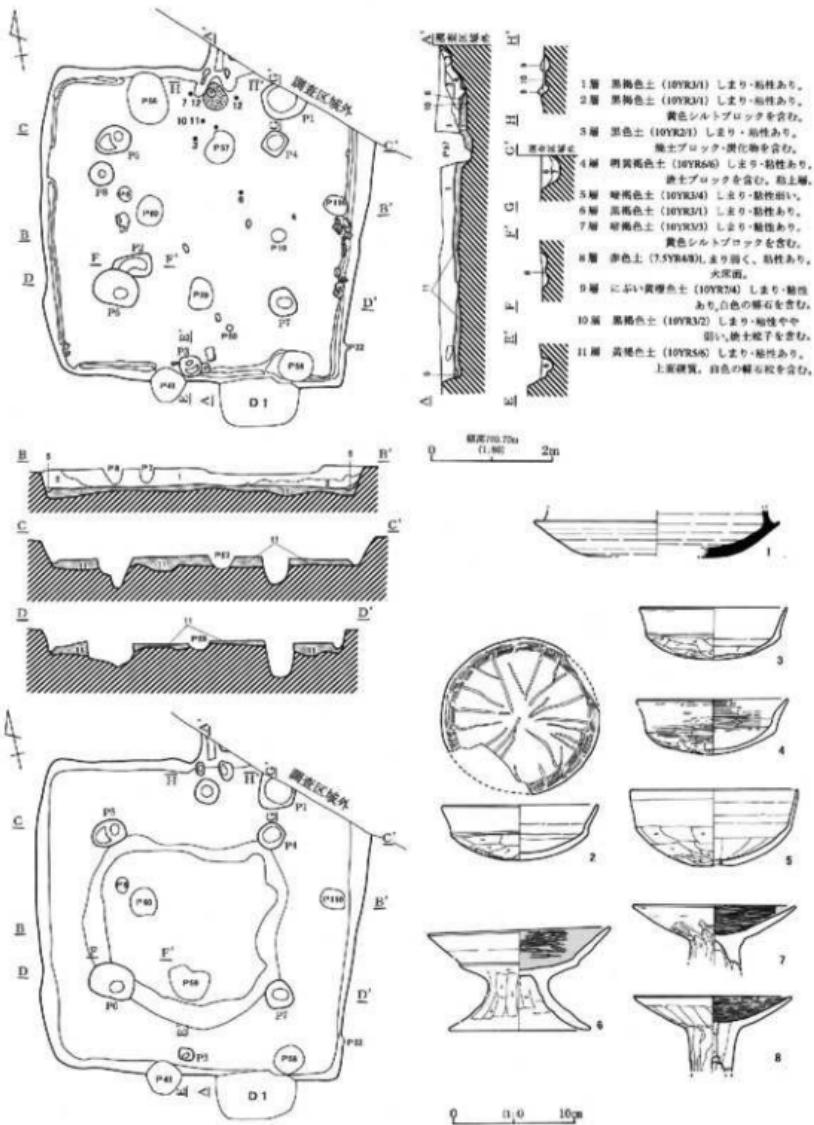
第1表 II号住居址出土遺物観察表

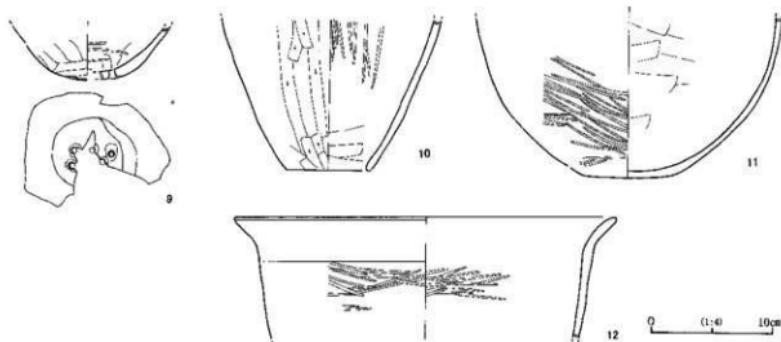
(2) H2号住居址

本住居址は、カー4・5、キー4・5Grに位置する。残存状態は北東コーナーが調査区域外となる他は良好である。重複するD1号土坑やピット群は本址よりも新しい。形態はほぼ方形を呈する。規模は検出北壁3.22m・南壁4.53m・西壁4.93m・検出東壁4.28mで、壁高は北西コーナーで36cmを測る。主軸方位はN-10°-Eを示す。床面積は検出部で22.9m²を測る。床は全体に硬質で特にカマド前面は顕著であった。貼り床の厚みは最大で23cmを測る。壁溝はカマド周辺部をのぞき断続的ではあるが巡っている。規模は幅18~42cm前後で、深さは3~8cmを測る。柱穴は8箇所検出され、P4~P7が主柱穴、P1が貯蔵穴と考えられる。ピットの規模はP1が径75cm・深さ29cm、P2が径115cm・深さ13cm、P3が径36cm・深さ24cm、P4が径45cm・深さ46cm、P5が径58cm・深さ50cm、P6が径75cm・深さ38cm、



第5図 H1号住居址全体図及び出土遺物実測図





第7図 H2号住居址出土遺物実測図

| No. | 種別 | 器種 | 法寸 | 底形・高さ・幅 | | 参考 | 出土位置 | |
|-----|-----|----|--------|---------|------|---------------|---------------|----------------|
| | | | | 口径cm | 底径cm | 高さcm | | |
| 1 | 須恵器 | 环身 | — | — | — | ロクロナヂ | ロクロナヂ | 回転実測 |
| 2 | 土師器 | 环 | 12.9 | 11.2 | 4.5 | あこみ型コナヂ | ロヨコナヂー底部へラケズリ | 回転実測 |
| 3 | 土師器 | 环 | 12.2 | 11.1 | 4.5 | あこみ型コナヂー | ロヨコナヂー底部へラケズリ | 安全実測 |
| 4 | 土師器 | 环 | 12.6 | 10.8 | 4.5 | ミガキ | ロヨコナヂー底部へラケズリ | 安全実測 内面実測 |
| 5 | 土師器 | 环 | (13.0) | (12.8) | 6.3 | あこみ型ヘナヂー口縁コナヂ | ロヨコナヂー底部へラケズリ | 回転実測 外面実測 |
| 6 | 土師器 | 高环 | 15.0 | (11.6) | — | 手感ヘナヂー色地塊 | ラケズリ | 安全実測 |
| 7 | 土師器 | 高环 | 12.5 | — | — | ミガキ一混色地塊 | ロヨコナヂーへナヂ | 安全実測 |
| 8 | 土師器 | 高环 | (13.0) | — | — | ミガキ一黒色地塊 | ロヨコナヂー体部へラケズリ | 回転実測 1・II区 カマド |
| 9 | 土師器 | 瓶 | — | 6.8 | — | ヘナヂー1ガキ | ヘナヂー穿孔 | 安全実測 残存部分 |
| 10 | 土師器 | 瓶 | — | 6.8 | — | ヘナヂーへナミガキ | ヘナヂー | 回転実測 1・II区 |
| 11 | 土師器 | 瓶 | — | 7.5 | — | ヘナヂー | ヘナミガキ | 安全実測 |
| 12 | 土師器 | 瓶? | (11.0) | — | — | ヘナミガキ | ヘナミガキ | 回転実測 |

第2表 II2号住居址出土遺物観察表

P 7が径49cm・深さ59cm、P 8が径40cm・深さ20cmである。住居址の掘り方は中央部分が高く、壁際は一段低くなる掘り方である。

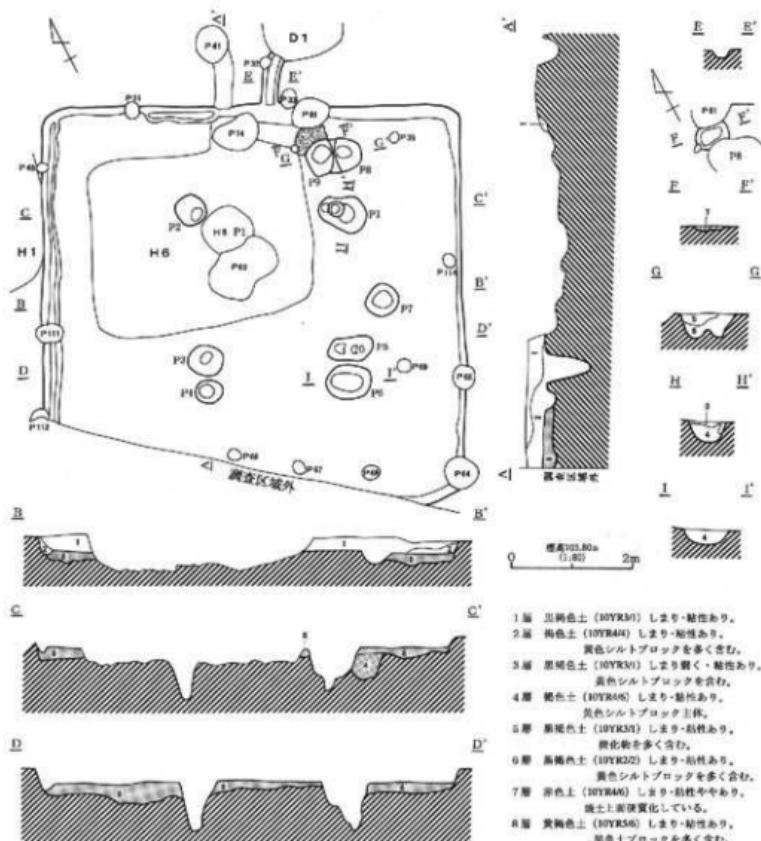
カマドは北壁中央にあり、袖部は黄色の粘土により構築されていた。主軸方位はN-13°-Eを示す。火床部はよく焼けており焼土が8cmほど検出された。カマド袖は右側が40cm、左側が51cm残存している。煙道部の長さは検出部分で46cmを測る。

出土遺物は覆土を中心に出土した。1は須恵器环身で覆土より出土した。受け部は折り返しのように見えるが確証を得ない。2から5は土師器瓶である。3は色調が赤橙色で表面に塗布したような様相である。出土位置はカマド手前の床面上から出土した。6~8は土師器高环でいずれも内面黒色処理されている。6は床面上に正位で置かれたような状態で出土し、ほぼ完形である。9と10は土師器瓶で9は多孔で5穴が確認できる。10は単孔で大型品と考えられる。11は土師器瓶の胴部から底部にかけてで、外間にミガキが施されている。12は残存部が少なく器種の決定に苦しむが口縁部の屈曲等から瓶と考えられる。カマド周辺より出土した。また、本址からは図に示したように東壁周溝上に編み物石(写真図版参照)と考えられる石がまとめて出土した。

これらの出土遺物より本址は古墳時代後期6世紀後半代の所産と考えられる。

(3) H3号住居址

本住居址は、カ-6、キ-5・6・7、ク-5・6Grに位置する。残存状態は南西コーナー部が調査区域外となる他は良好である。重複するH1号住居址、H6号住居址の内、本址が一番古い。形態はほぼ方形を呈する。規模は北壁6.62m・検出南壁0.96m・検出西壁5.08m・東壁6.2mで、壁高は北東コーナーで29cmを測る。主軸方位はN·26°Eを示す。床面積は検出部で38.4m²を測る。床は全体に軟質であった。貼り床の厚みは最大で36cmを測る。壁溝は西壁全体と北壁の一部を巡るように検出された。規模は幅約30cm前後で、深さは2~10cmを測る。ピットは床面で9個、掘り方検出時に7個の計16個が検出された。主柱穴はP1~P3・P5と考えられる。ピットの規模はP1が径81cm・深さ68cm、P2が径52cm・深さ63cm、P3が径58cm・深さ77cm、P4が径47cm・深さ22cm、P5が径76cm・深さ75cm、P6が径77



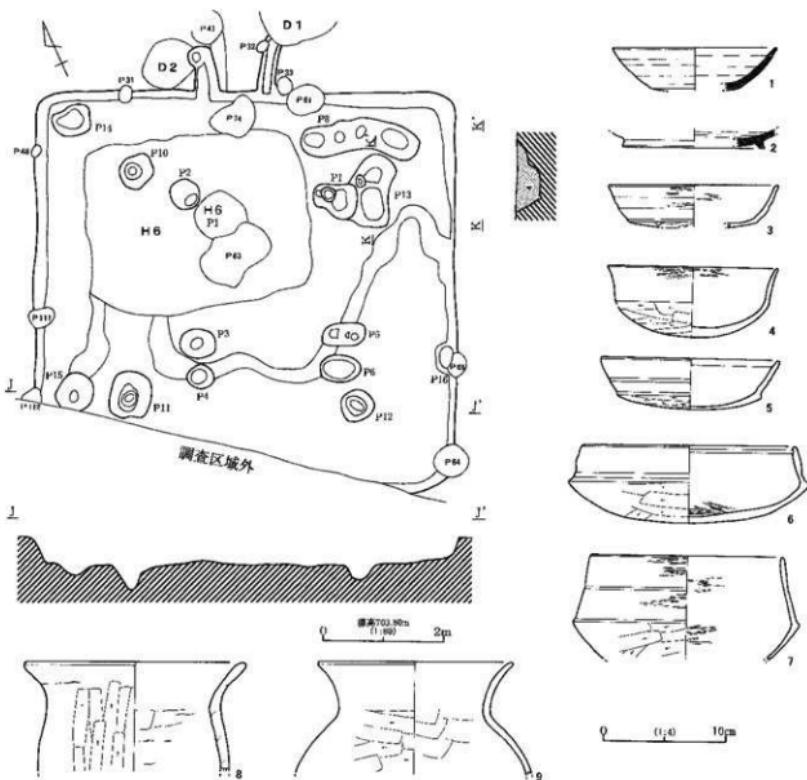
第8図 H3号住居址全体図

cm・深さ28cm、P7が径57cm・深さ16cm、P8が径54cm・深さ40cm、P9が径64cm・深さ38cm、P10が径60cm・深さ32cm、P11が径79cm・深さ43cm、P12が径55cm・深さ24cm、P13が径120cm・深さ36cm、P14が径63cm・深さ7cm、P15が径68cm・深さ25cm、P16が径55cm・深さ11cmである。住居址の掘り方は南側を中心に凹状に一段深くなる掘り方である。

なお、本址は掘り方検出時にP10～P13が検出された。これらのピット上にはいずれも貼り床が施されていたことから、先に述べたP1～P3・P5の主柱穴使用前の柱穴と考えられる。また、北壁には2箇所の煙道が確認された。北壁に向かって東よりの煙道は確認面より深さ11cmでやや主軸がずれるが床面に火床面が確認された。西よりの煙道は確認面より38cmとやや深い。いずれも壁面はやや焼けこみが確認された。これらの事から本址はカマドの作り替えと共に住居規模の縮小の例と考えられる。

ただ、ここで問題となるのはH6号住居址との問題である。後述するがH6号住居址は平安時代所産の住居で本址より新しい。H6号住居址も北壁にカマドがあり、煙道が北側にのびている。ただ、P74がカマド本体と煙道部の関係を断ち切っており、H6号住居址の煙道という確認は得られなかつた。

また、煙道の深さから考えるとH6号とH3号東側の煙道は掘り込み深さも似ており同時期を示すも



第9図 H13号住居址掘り方全体図及び出土遺物実測図

のか。とすればH3号西側の深い掘り込みの煙道がH6号に伴うとも考えられるが、平安時代でカマド煙道がのびる類例が当地方には管見に触れない。調査時の判断の甘さから確定ができないがいざれにしても、H3号住居址はカマドの作り替えが行われていることは確かと考える。

本址からの出土遺物は住居址の規模からすると少なかった。1は須恵器环、2は須恵器有台杯であるが混入遺物と考えられる。3~5は土師器杯で、4は住居址南西側の床面より8cm浮いた状態で出土した。5は北壁壁溝上から出土した。6と7は土師器杯でしたが、大きさより鉢とすべきか。いずれも須恵器环身の模倣から変化したもので、7は口縁部に沈線状の段を有する。8と9は土師器甕で、口縁部の形態より8は長胴のタイプ、9は胴が脹るタイプと考えられる。

以上の出土遺物から本址は古墳時代後期6世紀後半代の所産と考えられる。

| No. | 器種 | 器形 | 寸 厘 | | | 成 形・調 烹・文 標 | | 備考 | 出土位置 |
|-----|-----|-----|--------|--------|------|-------------|--------------------|---------|------|
| | | | 内径cm | 底径cm | 高さcm | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 須恵器 | 环 | (12.0) | (7.0) | — | ロクロナヂ | ロクロナヂ | 円筒穴環 | I区 |
| 2 | 須恵器 | 有台杯 | — | (11.0) | — | ロクロナヂ | ロクロナヂ・底面凹凸面ヘラズリ→脚台 | 円筒穴環 | II区 |
| 3 | 土師器 | 杯 | (14.0) | (10.0) | — | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 円筒ヘラミガキ | II区 |
| 4 | 土師器 | 杯 | (14.0) | (12.0) | 5.7 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 円筒ヘラミガキ | II区 |
| 5 | 土師器 | 杯 | (14.0) | (11.0) | 1.2 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 円筒ヘラミガキ | II区 |
| 6 | 土師器 | 杯 | (12.0) | (10.0) | 6.4 | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 円筒ヘラミガキ | II区 |
| 7 | 土師器 | 甕 | (16.0) | (18.0) | — | ヘラミガキ | ヘラミガキ | 円筒ヘラミガキ | カマド |
| 8 | 土師器 | 甕 | (18.0) | — | — | ヘラズリ | ヘラズリ | 円筒穴環 | I区 |
| 9 | 土師器 | 甕 | (16.0) | — | — | ヘラズリ | ヘラズリ | 円筒穴環 | II区 |

第3表 H3号住居址出土遺物観察表

(4) H4号住居址

本住居址は、ケー5・6Grに位置する。住居址東側のみの検出である。重複構造の内、本址が一番古い。規模は検出北壁0.44m、検出東壁4.62mを測る。主軸方位はN-22°-Eを示す。床面は既になく、貼り床時の上が残るのみであった。壁溝及びピットは検出されなかった。出土遺物は非常に少なく実測可能なものは無かったが、出土した土師器环や甕破片の特徴から古墳時代後期の所産と考えられる。

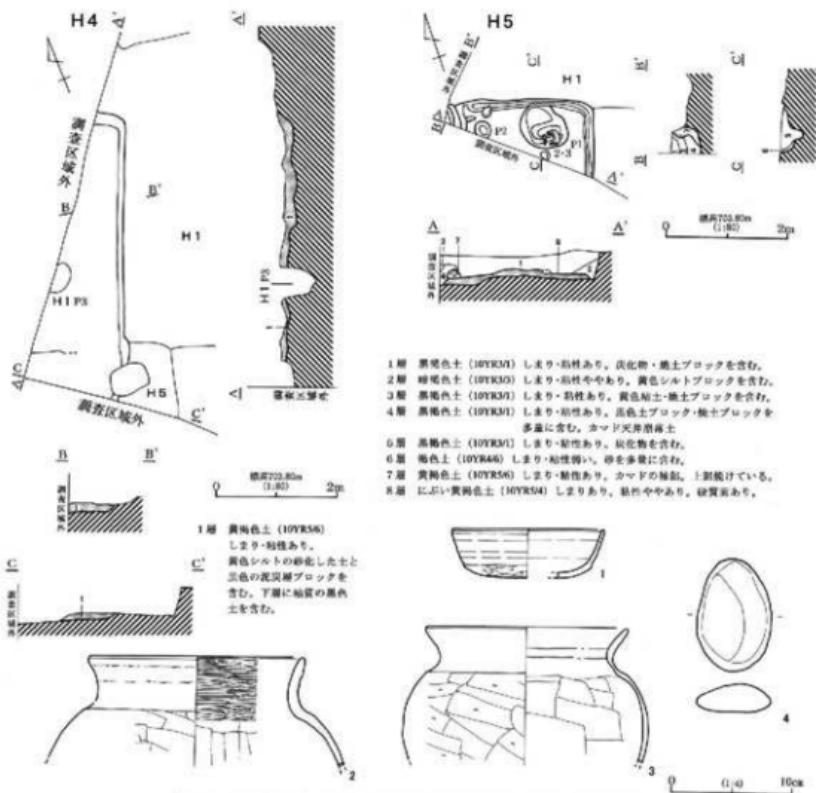
(5) H5号住居址

本住居址は、ケー5・6Grに位置する。住居址北東コーナーとカマドの一部のみの検出である。重複関係は、H1号住居址より本址が古い。規模は検出北壁2.40m、検出東壁1.14mで、壁高は東壁部分で34cmを測る。主軸方位はN-17°-Eを示すと考えられる。床面積は検出部で1.8m²を測る。床は全体に硬質であった。貼り床の厚さは6~10cmを測る。ピットは2箇所検出され、P1は貯蔵穴と考えられる。規模は長軸81cm・短軸71cmで、深さは46cmを測り、一部にテラス状を呈する。P2は規模が径28cm・深さ18cmを測る。カマドは北壁にあり、右袖の一部が検出された。袖は黄色の粘土で構築されており、カマド中側が非常に比熱を受けていた。

出土遺物は貯蔵穴付近を中心に出土した。1は土師器环で覆土からの出土。2と3は貯蔵穴上にかかるように出土した。4は磨石と考えられる。本址はこれらの出土遺物の特徴より古墳時代後期6世紀後半代の所産と考えられる。

| No. | 器種 | 器形 | 寸 厘 | | | 成 形・調 烹・文 標 | | 備 考 | 出土位置 |
|-----|-----|----|--------|--------|------|----------------------|---------------|------|------|
| | | | 口径cm | 底径cm | 高さcm | 内 面 | 外 面 | | |
| 1 | 土師器 | 环 | (12.0) | (10.0) | 4.0 | ヨコナヂ | ヨコナヂ・武型ヘラズリ | 円筒穴環 | 寺社 |
| 2 | 土師器 | 甕 | 17.0 | — | — | 1脚ヨコナヂ・脚部ヘラナヂ→脚部ヨコナヂ | 脚部ヨコナヂ→脚部ヨコナヂ | 完全穴環 | I区 |
| 3 | 土師器 | 甕 | 16.8 | — | — | 1脚ヨコナヂ・脚部ヨコナヂ | 脚部ヨコナヂ | 円筒穴環 | I区 |
| No. | 器種 | 器形 | 高さcm | 最大径 | 最小径 | 内 面 | 外 面 | 備 考 | 出土位置 |
| 4 | 磨石 | — | — | 9.0 | 6.1 | 2.4 | 160.00 | — | 寺社 |

第5表 11号住居址出土遺物観察表



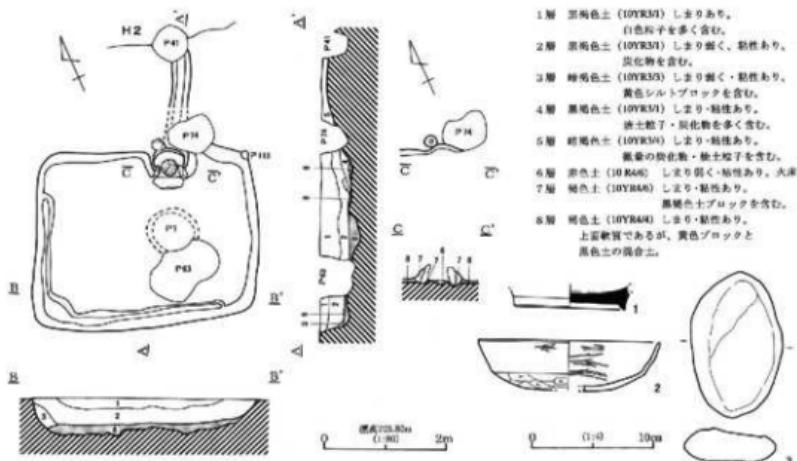
第10図 H4号住居址・H5号住居址全体図及びH5号住居址出土遺物実測図

(6) H6号住居址

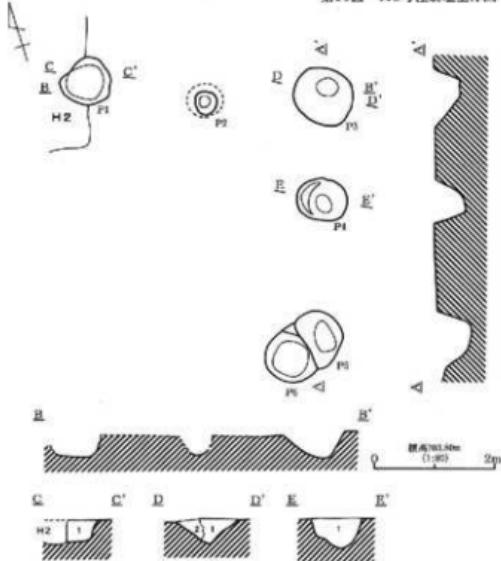
本住居址は、キ-5・6、ク-5・6Grに位置する。残存状況はカマドの一部をピットに壊されているが良好である。形態はほぼ方形を呈する。規模は北壁3.33m、南壁3.52m、西壁2.67m、東壁2.49mで、壁高は住居址北西コーナーで20cmを測る。主軸方位はN-24°-Eを示す。床面積は8.6m²を測る。床は全体に軟質であった。貼り床の厚みは最大で19cmを測る。壁溝は南西コーナーを中心に南壁と西壁に巡つ

| No. | 基 確 | 形 性 | 底 面 | | | 底 面 - 壁 面 - 文 面 | | | 備 考 | 出 土 物 |
|-----|-----|-----|--------|--------|------|-----------------|----------------------|------|-------|-------|
| | | | 外側cm | 内側cm | 高さcm | 内 面 | 外 面 | | | |
| 1 | 東北端 | 角台年 | - | (0.2) | - | ロクロナフ | ロクロナフ-底面4cmへラクツ(1年台) | 脚柱先端 | 2区 | |
| 2 | 土間部 | 年 | (33.0) | (12.4) | - | ヘラクツ | 日縫ヘラクツ(1年台) | 脚柱先端 | カマド | |
| No. | 基 確 | 形 性 | 底 面 | 壁 面 | 高さ | 内 面 | 外 面 | 備 考 | 出 土 物 | |
| 4 | 壁石 | | 13.0 | 7.7 | 3.0 | 300.00 | | | | |

第6表 H6号住居址出土遺物観察表



第111図 H6号住居址全体図



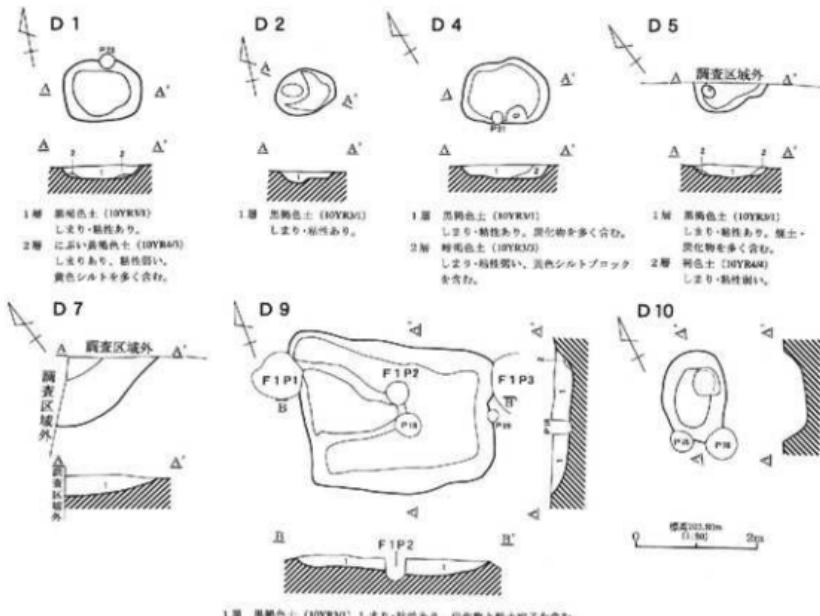
1層 黒褐色土 (10YR3/1) しまり・粘性あり。白色粒子と砂を少量含む。
2層 にい黄褐色土 (10YR4/7) しまり・粘性やや弱い。黄色シルトを多く含む。

第112図 F1号独立柱建物址全体図

ている。規模は幅25~56cmで、深さは1~6.5cmを測る。掘り方検出時のピットは円形で規模からすると床下土坑的な性格が考えられる。規模は径85cm・深さ16cmを測る。

カマドは北壁やや東よりにあり、袖は川原石と褐色土で構築されていた。火床部は硬質化し非常に良く焼けていた。焼土の厚みは7cmを測る。

本址からの遺物は非常に少なく、2は土師器壺でH3号住居址からの混入が考えられ、本址に伴うものは1の須恵器有台壺と考えられる。よって本址はこの遺物の特徴より平安時代の所産と考えられる。



1層 黒褐色土 (10YR3/3)
しまり・粘性あり。
2層 にぶい黄褐色土 (10YR4/5)
しまりあり。粘性弱い。
黄色シルトを多く含む。

第13図 土坑全体図及び土坑・掘立柱建物址出土遺物実測図

| No. | 基 標 | 基 高 | 計 算 | | | 成 形・調 整・文 程 | 面 号 | 出土地点 |
|-----|-----|-----|--------|-------|------|-------------|--------------|------|
| | | | Ufcm | 底面cm | 高さcm | 内 面 | | |
| 1 | 土頭部 | 坪 | (13.6) | - | - | ミガキ・黑色地質 | ロクロナギ | II-1 |
| 2 | 黒褐色 | 壇 | (29.2) | - | - | ロクロナギ | ロクロナギ | F1P2 |
| 3 | 土頭部 | 坪 | - | (3.6) | - | ミガキ・黑色地質 | ロクロナギ・回転ヘラタグ | II-2 |
| 4 | 黒褐色 | 壇 | (26.6) | - | - | ロクロナギ | ロクロナギ 平行タグ | D10 |

第7表 掘立柱建物址・土坑出土遺物観察表

2.掘立柱建物址

(1)F1号掘立柱建物址

本址はオ-5・6、カ-5・6Grに位置する。6個の柱穴から構成され、各ピットの規模はP1が径81cm・深さ44cm、P2が径60cm・深さ41cm、P3が径95cm・深さ42cm、P4が径85cm・深さ49cm、P5が径96cm・深さ58cm、P6が径98cm・深さ41cmを測る。ピット間の規模はP1～P3が3.97m、P3～P6が4.47mを測る。P3～P6の主軸方位はN-18°Eを示す。

本址からの出土遺物は図示した須恵器甕の他に土師器坏と、いわゆる「武藏甕」と呼ばれる土師器甕があった。

3.土坑

(1)D1号土坑

本址は、キ-5Grに位置する。形態は方形で、規模は長軸1.30m・短軸1.01m、深さ25cmを測る。主軸方位はN-78°Wを示す。本址よりの出土遺物は実測として示した土師器坏の他に「武藏甕」を含む土師器甕、須恵器甕、須恵器坏のいずれも破片があった。

(2)D2号土坑

本址は、キ-5Grに位置する。形態は方形で、規模は長軸1.02m・短軸0.74m、深さ19cmを測る。主軸方位はN-85°Wを示す。本址よりの出土遺物は「武藏甕」を含む土師器甕、須恵器甕のいずれも小片があったのみである。

(3)D4号土坑

本址は、オ-5・6Grに位置する。形態は方形で、規模は長軸1.42m・短軸1.05m、深さ20cmを測る。底面にピットが1個検出された。主軸方位はN-60°Wを示す。本址よりの出土遺物は「武藏甕」を含む土師器甕片が出土したのみである。

(4)D5号土坑

本址は、オ-5Grに位置する。形態は楕円形と考えられるが、北半分が調査区域外となるため不明である。規模は残存長軸0.61m・残存短軸0.37m、深さ20cmを測る。主軸方位はN-79°Wを示す。本址よりの出土遺物は須恵器甕、上師器のいずれも小片が出土したのみである。

(5)D7号土坑

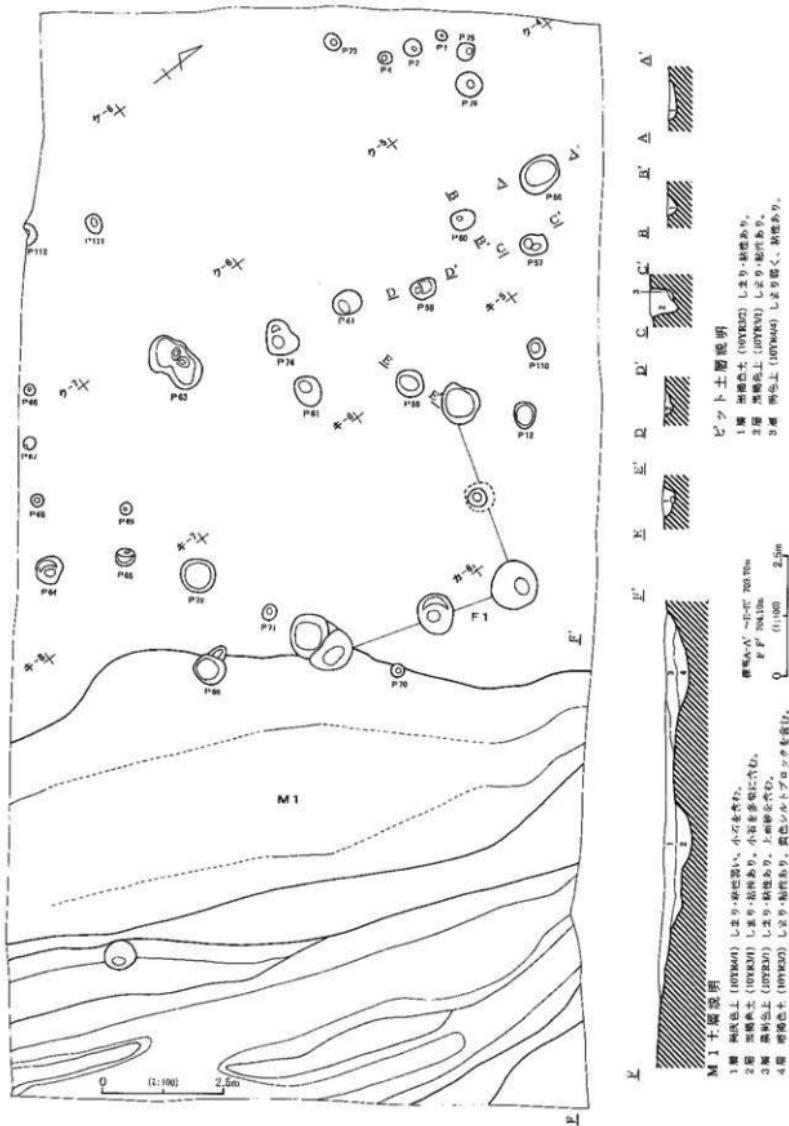
本址は、キ-3・4Grに位置する。形態はほとんどが調査区域外となるため不明である。規模は深さ29cmを測る。本址よりの出土遺物は無かった。

(6)D9号土坑

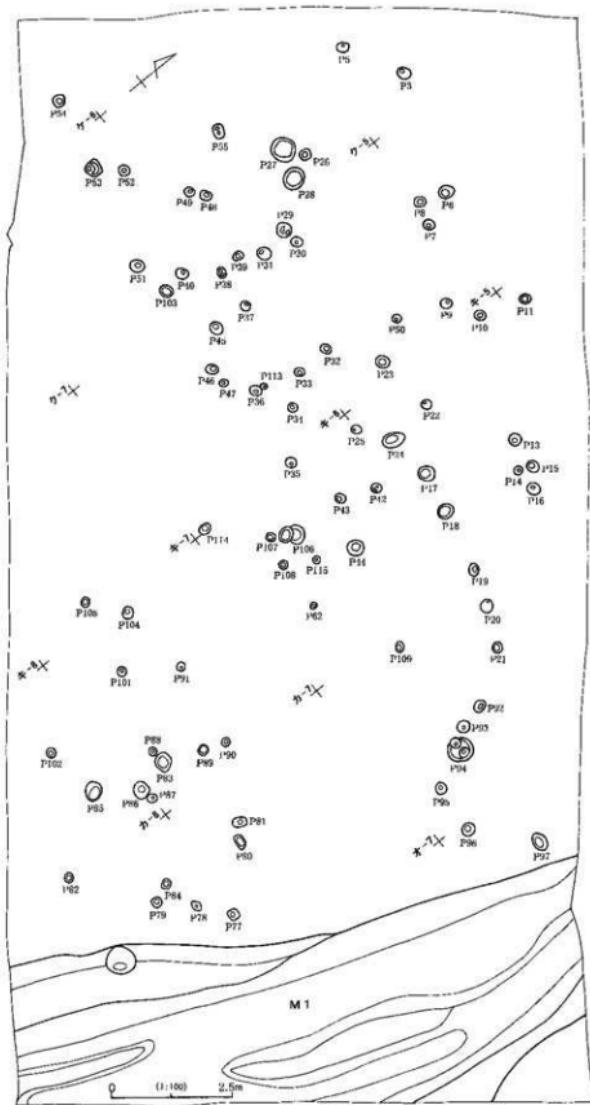
本址は、オ-5、カ-5・6Grに位置する。形態は長方形で、規模は長軸3.10m・短軸2.49m、深さ32cmを測る。主軸方位はN-68°Wを示す。重複する遺構は本址よりいずれも新しい。本址よりの出土遺物は実測として示した土師器坏の他に須恵器甕、須恵器坏の破片があった。3の土師器杯は、底部および底部周辺に回転ヘラケズリを施す。

(7)D10号土坑

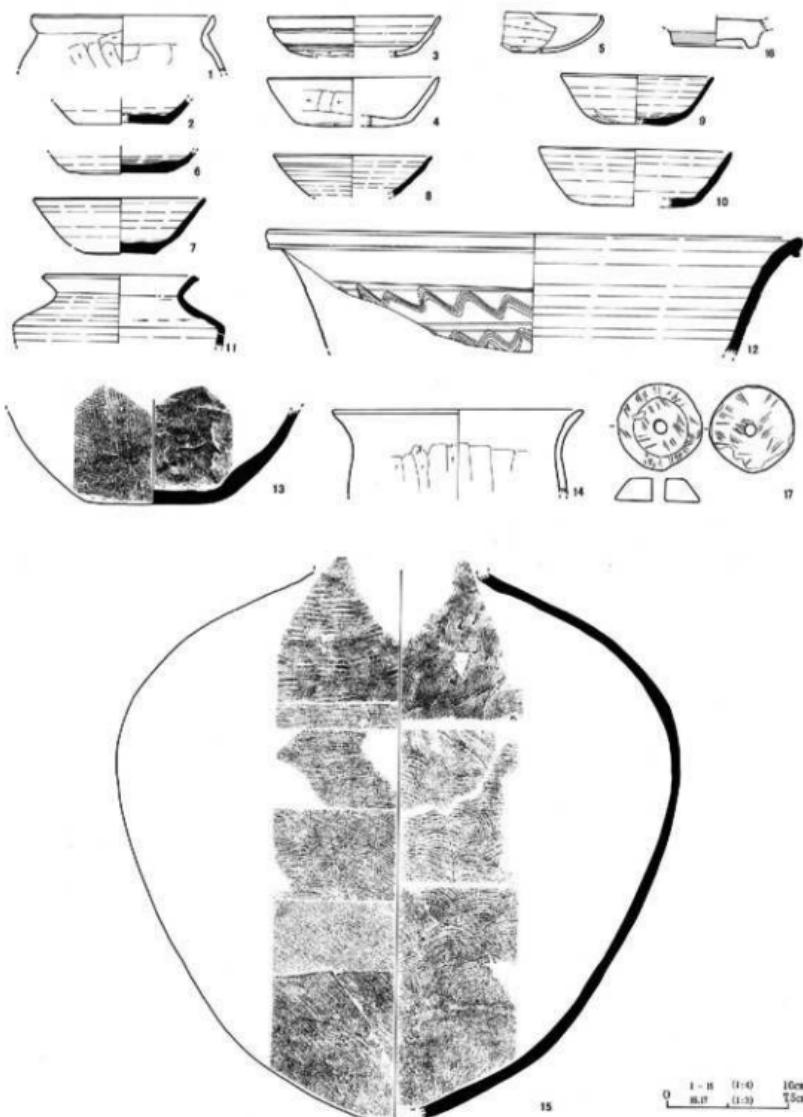
本址は、キ-4、ク-4Grに位置する。形態は楕円形で、規模は長軸1.45m・短軸1.05m、深さ40cmを測る。主軸方位はN-26°Eを示す。本址よりの出土遺物は土師器甕、須恵器甕のいずれも破片があった。



第14図 M1号溝状遺構及び孤立立柱性建物址配置図



第15図 中世ピット配置図



第16図 M1号溝状造構及びピット出土遺物実測図

4.溝状遺構

(1)M1号溝状遺構

本址は、調査区東端に位置する。溝状の落ち込みはほぼ並行して2本検出された。東側の溝状遺構は北側端で規模が幅3.10m・深さ59cm、やや南側で幅4.30m・深さ70cmを測る。溝は南に向かうに従い幅が広がるようであるが、溝端が調査区外となる為全容は不明である。覆土は礫層が主体で、一部に砂層が混じる状態であった。溝底面からは拳大から人頭大の礫が検出されでこぼこしており、一部には流水の影響か溝壁面が抉れている部分もあった。出土遺物としては図示したように、土師器・須恵器や石製紡錘車が出土し上層からは青磁片も出土した。

西側の溝も東側と同様に北側から南側にかけて溝幅は広がり、北端で幅1.98m・深さ51cm、南端で幅4.09m・深さ52cmを測る。溝底面は東側溝と同じく最下部で礫層となった。覆土は粘性のある褐色土が主体で、出土遺物も図示した須恵器大壺や古墳時代の土師器壺・坏等があった。また、西側の溝状遺構上面からは中世所産と考えられるビット群が検出されている。

以上のように本址は同規模の溝状遺構が2本平行して検出されたが、それぞれ出土遺物や重複遺構から判断すると西側の溝状遺構は中世以前に既に埋没し、中世以降は東側の溝状遺構が機能していたと考えられる。本址の性格はその形状から流水の痕跡が認められることから流路跡と考えられるが、地形的に高くなる東側に流れが変わるという不自然な状況より、或いは当初に人工的な溝の開削があり、その後自然流路化していったと考えられる。なお、調査区南側には試掘調査時においてこの流路は確認されていない。

5.ビット

本遺跡からは115個のビットが検出された。これらビットはその覆土の状態と形態で古代と中世のそれぞれ二期間に所産が分かれると判断した(表中記載)。中世のビットは調査区全体に検出され、その検出位置も不規則で建物位置を推測できなかった。古代のビットは調査区中央付近で密集して検出された。掘立柱建物址としてはF1号掘立柱建物址を前述したが、P57・P59・P41・P74・P63等は柱列的な形相もあり、F1号掘立柱建物址の庇の可能性もある。尚、P41とP44より須恵器壺と土師器壺が出土しそれぞれ図示した。

| No. | 基 標 | 基 高 | 法 番 | 成 形・調 球・文 様 | | 圖 号 | 出土位置 | |
|-----|----------|------|--------|-------------|-----------------|-------------------|-----------------------|------------------------------|
| | | | | 内 面 | 外 面 | | | |
| 1 | 土師器 壺 | — | (15.2) | — | ハラナダ | ハラケアリ | Ⅳ松実附 | P44 |
| 2 | 須恵器 壺 | — | (7.8) | — | ロクロナダ 大だき縁 | ロクロナダ 截面削み切り 大だき縁 | Ⅳ松実附 | P41 |
| 3 | 土師器 壺 | — | (14.0) | (10.7) | — | ミクロナダ | ミクロナダ 流れあけアズリ | Ⅳ松実附 |
| 4 | 土師器 壺 | — | (14.2) | (9.3) | 4.1 | ヨコナダ | ヨコナダヨナダー・ラケアリ 截面ヘラケアリ | Ⅳ松実附 密井 |
| 5 | 土師器 壺 | — | — | — | ヨコナダ | ヨコナダヘラケアリ | Ⅳ松実附 | M1-東区 |
| 6 | 須恵器 壺 | — | — | — | ロクロナダヘニコロハラナダ | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実附 | M1-東区 |
| 7 | 須恵器 壺 | — | 14.0 | 5.9 | 4.6 | ロクロナダ | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実附 |
| 8 | 須恵器 壺 | — | (12.1) | — | ロクロナダ 大だき縁 | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実附 | M1 |
| 9 | 須恵器 壺 | — | (12.0) | (3.4) | 4.1 | ロクロナダ | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実附 |
| 10 | 須恵器 壺 | — | (16.0) | (11.2) | 4.7 | ロクロナダ 大だき縁 | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実附 |
| 11 | 須恵器 壺 | — | (13.0) | — | — | ロクロナダ ロジ梅付壺 | ロクロナダ ロジ梅付壺 | Ⅳ松実附 |
| 12 | 須恵器 壺 | — | (44.0) | — | ロクロナダ ロジ梅付壺 | ロクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実付沿 | M1-東区 |
| 13 | 須恵器 壺 | — | (11.0) | — | 气口瓶 | タタキ | Ⅳ松実附 | M1-東区 |
| 14 | 土師器 壺 | 20.6 | — | (7.0) | ロクロナダヘニコロハラケアリ | ミクロナダヘニコロハラナダ | Ⅳ松実付 | M1-東区 |
| 15 | 須恵器 壺 | — | — | — | 气口瓶 | タタキ | 新面実附(和木) | M1-西区 M3 上層 ホ-7 カ-7-8 P58 |
| 16 | 青磁 壺 | — | — | 5.3 | — | 施釉 | 完全丸附 | M1-上層 |
| No. | 基 標 | 基 高 | 法 番 | 現存率 | 地大粒 地大粒 地大粒 重合 | 所 有 | 出上位置 | |
| 17 | 若 利 | 滑石 | 光沢 | は3.3 | 孔径0.6 1.4 28.00 | 最大径3.3cm 最小径3.3cm | | M1 |

第8表 ビット及び溝状遺構出土遺物観察表

| 遺構番号 | 出土位置 | 長軸×短軸×厚さ | 形・態 | 層位 | 断面形状 | 遺構名 | 出土位置 | 長軸×短軸×厚さ | 形・態 | 層位 | 地質 | 参考情報 | | | |
|------|---------|-------------|----------------|----------------|------|------------|-------------|---------------|-------------|------------------|-------|----------|------------|---|--|
| | | | | | | | | | | | | 古代 | 近代 | | |
| P1 | 夕 4 | 2.4×2.2×1.0 | 円形 | 黒褐色土 (10YR4/1) | 古代 | P59 | 牛 2 | 5.2×3.6×0.9 | 楕円形 | 黒褐色土 | 古代 | D1C切られ | | | |
| P2 | + | 3.8×2.4×2.5 | + | + | + | P60 | 牛 4-5 | 5.0×3.4×4.5 | 楕円形 | + | + | | | | |
| P3 | + | 2.8×2.3×3.4 | + | 黒褐色土 (10YR4/2) | 中世 | P61 | 牛 6 | 6.7×4.9×5.1 | 楕円形 | + | + | ID1切られ | | | |
| P4 | + | 3.2×2.8×1.1 | + | 黒褐色土 (10YR3/1) | 古代 | P62 | カ 6 | 1.8×1.3×0.6 | 方形 | - | 中世 | | | | |
| P5 | + | 2.4×2.3×2.7 | + | 黒褐色土 (10YR4/2) | 中世 | P63 | 牛 6 | 10.0×6.5×0.9 | 楕円形 | 黒褐色土 | 古代 | H5-H3を切る | | | |
| P6 | 牛 4-1 | 2.1×1.8×0.5 | 方形 | + | + | H1毛切6 | 牛 7 | 8.7×3.4×0.7 | 円形 | + | + | ID1切られ | | | |
| P7 | 牛 4-5 | 2.4×2.3×2.4 | 円形 | + | + | H2毛切6頭6 | P65 | 4.2×3.8×3.2 | + | + | + | + | + | | |
| P8 | 牛 4-5 | 2.5×2.3×2.4 | 方形 | + | + | H2毛切6 | P66 | 2.2×2.1×4.2 | 方形 | + | + | + | + | | |
| P9 | + | 2.1×1.8×2.7 | 円形 | + | + | P67 | 牛 7 | 2.6×1.5×2.2 | 円形 | + | + | + | + | | |
| P10 | カ 4-5 | 2.6×2.4×4.2 | 方形 | + | + | P68 | 牛 7 | 2.7×2.5×3.6 | 方形 | + | + | + | + | | |
| P11 | カ 4 | 2.2×2.2×3.5 | + | + | + | P69 | 牛 7 | 2.5×2.3×4.5 | 円形 | + | + | + | + | | |
| P12 | カ 4-5 | 5.5×4×6.3.2 | 楕円形 | 黒褐色土 (10YR5/1) | 古代 | P70 | オ 6 | 2.9×2.5×1.7 | 方形 | - | + | M1毛切6 | | | |
| P13 | + | 2.5×2.4×1.8 | 方形 | + | 中世 | P71 | カ 6 | 3.0×2.9×0 | 円形 | - | + | | | | |
| P14 | + | 2.0×1.7×1.8 | 円形 | + | + | P72 | カ 7 | 7.3×6.8×1.6 | + | - | + | | | | |
| P15 | + | 2.4×2.3×3.3 | 方形 | + | + | P73 | カ 6 | 8.7×3.1×1.3 | + | 黒褐色土 | + | ID1切られ | | | |
| P16 | + | 2.7×2.5×3.9 | + | + | + | P74 | 牛 6 | 7.5×5.3×5.7 | 楕円形 | + | + | H5-H3を切る | | | |
| P17 | + | 2.4×3.3×3.0 | + | + | + | D1毛切6 | P75 | カ 4 | 4.1×3.4×4.6 | 円形 | + | + | D1切られ | | |
| P18 | + | 3.3×3.2×1.1 | + | + | + | P76 | 牛 4-5 | 5.4×4.9×3.2 | + | + | + | + | + | | |
| P19 | オ 4-5 | 2.3×1.9×1.7 | 円形 | + | + | P77 | オ 8 | 2.3×2.0×1.6 | 方形 | 黒褐色土 (10YR4/2/1) | 中世 | | | | |
| P20 | オ 4-5 | 2.7×2.3×2.2 | + | + | + | P78 | + | 1.8×1.7×9 | + | + | + | M1毛切6 | | | |
| P21 | + | 2.3×2.0×1.7 | + | + | + | D1毛切6 | P79 | 2.0×1.9×2.8 | + | + | + | + | + | | |
| P22 | カ 4-5 | 2.4×2.1×2.5 | 方形 | + | + | H2毛切6頭6 | P80 | 2.7×2.0×2.2 | + | + | + | + | + | | |
| P23 | 牛 4-5 | 2.6×2.3×2.9 | + | + | + | H2-D1毛切6 | P81 | 2.9×1.8×1.9 | + | + | + | + | + | | |
| P24 | カ 4 | 4.6×2.9×2.0 | 椭円形 | + | + | P82 | カ 8 | 1.8×1.8×2.4 | + | + | + | + | + | | |
| P25 | カ 4-5-6 | 1.7×1.6×1.6 | 方形 | + | + | P83 | 牛 7 | 3.7×3.2×1.2 | + | + | + | + | + | | |
| P26 | カ 4-5 | 2.3×2.2×3.6 | + | + | + | P84 | カ 8 | 1.8×1.7×8 | + | + | + | + | + | | |
| P27 | + | 5.3×0.9×8 | 円形 | 既存物を含む | + | H1毛切6 | P85 | カ 8 | 3.9×3.3×3.4 | 楕円形 | + | + | M1毛切6 | | |
| P28 | + | 4.7×4.4×1.0 | + | 既存物を含む | + | P86 | カ 7-8 | 3.5×3.3×2.0 | 方形 | + | + | + | + | | |
| P29 | 牛 4-5 | 3.0×3.0×2.1 | 黒褐色土 (10YR3/1) | + | + | P87 | 2.1×1.8×1.5 | + | + | + | + | + | + | | |
| P30 | + | 2.3×2.3×3.0 | + | + | + | P88 | 牛 7 | 1.7×1.6×3.0 | + | + | + | + | + | | |
| P31 | + | 2.0×2.6×4.5 | + | + | + | H3毛切6 | P89 | 2.0×1.9×2.9 | + | + | + | + | + | | |
| P32 | + | 2.1×1.9×1.8 | 方形 | + | + | P90 | + | 1.8×1.6×2.0 | + | + | + | + | + | | |
| P33 | 牛 4-6 | 1.9×1.9×3.7 | + | + | + | P91 | + | 1.7×1.7×1.2 | + | + | + | + | + | | |
| P34 | + | 2.0×1.9×2.0 | + | + | + | H3-P51を切る | P92 | 牛 5 | 2.9×2.2×1.3 | 楕円形 | + | + | + | + | |
| P35 | カ 4-6 | 2.2×2.0×4.6 | + | + | + | H3毛切6 | P93 | 2.9×2.7×2.8 | 方形 | + | + | + | + | | |
| P36 | 牛 4-6 | 2.4×2.1×2.0 | + | + | + | H3-H1毛切6頭6 | P94 | 5.2×5.0×2.0 | + | + | + | + | + | | |
| P37 | + | 1.8×1.6×2.8 | + | + | + | H3毛切6 | P95 | 2.2×2.2×1.4 | + | + | + | + | + | | |
| P38 | カ 4-6 | 2.2×1.8×3.5 | 円形 | + | + | H3-H1毛切6 | P96 | エ 6 | 3.0×2.9×1.7 | + | + | + | + | | |
| P39 | カ 4-5 | 2.1×1.9×2.8 | 方形 | + | + | H3毛切6 | P97 | 3.4×3.2×2.1 | + | + | + | + | + | | |
| P40 | カ 6 | 2.4×2.5×3.1 | + | + | + | H3-H3毛切6 | P98 | カ 7 | 8.6×5.5×3.4 | 不規則形 | + | 古代 | M1毛切6 | | |
| P41 | 牛 4-5 | 5.5×0.6×0.9 | 円形 | 既存物+ロムブロック合 | 古代 | H3-H1毛切6 | P99 | F1に変更 | | | | | | | |
| P42 | カ 4-6 | 2.1×1.9×2.3 | 方形 | 黒褐色土 (10YR4/2) | 中世 | P100 | + | | | | | | | | |
| P43 | + | 2.3×1.9×2.9 | 方形 | + | + | P101 | カ 7 | 2.1×1.9×1.1 | 方形 | 黒褐色土 (10YR4/2) | 中世 | M1毛切6 | | | |
| P44 | + | 3.7×3.2×4.6 | + | + | + | P102 | カ 8 | 2.2×1.8×2.1 | + | + | + | + | + | | |
| P45 | 牛 4-6 | 2.3×2.2×3.6 | + | + | + | H3-H3毛切6頭6 | P103 | カ 8 | 2.8×2.4×1.4 | + | + | + | 106-125を切る | | |
| P46 | + | 2.1×2.1×3.5 | + | + | + | P104 | カ 7 | 2.4×2.1×1.3 | + | + | + | | | | |
| P47 | + | 1.7×1.5×4.0 | + | + | + | P105 | 牛 7 | 1.7×1.6×6 | + | + | + | | | | |
| P48 | カ 4-5 | 2.4×2.0×4.1 | + | + | + | H3毛切6 | P106 | カ 6 | 5.4×3.6×7 | + | + | | | | |
| P49 | + | 2.3×2.2×3.1 | + | + | + | H1毛切6 | P107 | 1.8×3.6×1.4 | + | + | + | | | | |
| P50 | 牛 4-3 | 1.9×1.8×2.7 | + | + | + | H2毛切6 | P108 | 1.9×1.9×2.1 | + | + | + | | | | |
| P51 | カ 6 | 2.9×2.8×4.2 | + | + | + | H3-H1毛切6 | P109 | カ 6 | 2.0×1.9×2.0 | + | + | | | | |
| P52 | + | 2.3×2.1×3.0 | + | + | + | H1毛切6 | P110 | カ 6 | 3.8×3.4×2.2 | 円形 | 黒褐色土 | 古代 | H2毛切6 | | |
| P53 | + | 3.5×3.0×3.1 | + | + | + | P111 | カ 6 | 4.3×3.0×4.5 | 楕円形 | + | ED毛切6 | | | | |
| P54 | カ 6-6 | 2.8×2.4×3.3 | + | + | + | H3-H1毛切6 | P112 | (4.0×1.0)×1.9 | 円形 | + | + | | | | |
| P55 | カ 5-5 | 3.0×1.9×4.5 | 抜方形 | + | + | H1毛切6 | P113 | 牛 6 | 1.3×1.3×4.1 | 方形 | 中世 | H3-H1毛切6 | | | |
| P56 | カ 4-4 | 8.6×6.6×4.8 | 椭円形 | 黒褐色土 (10YR3/1) | 古代 | H3-H2毛切6 | P114 | カ 6-6 | 2.5×2.0×2.0 | + | + | H3毛切6 | | | |
| P57 | + | 3.3×3.3×3.0 | + | + | + | P115 | カ 6 | 1.8×1.5×3.4 | 円形 | + | + | | | | |
| P58 | カ 4-5 | 5.9×3.3×4.5 | 円形 | + | + | H3-H6毛切6 | | | | | | | | | |

第9表 ピット計測表



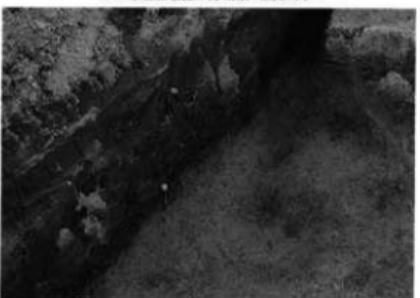
H1号住居址全景（南より）



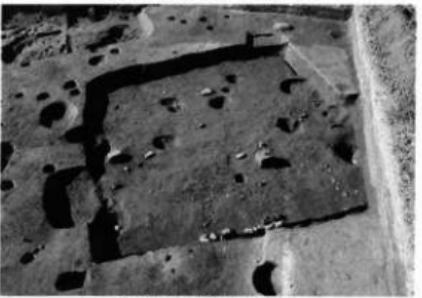
H1号住居址掘り方全景（南より）



H1号住居址カマド全景（南より）



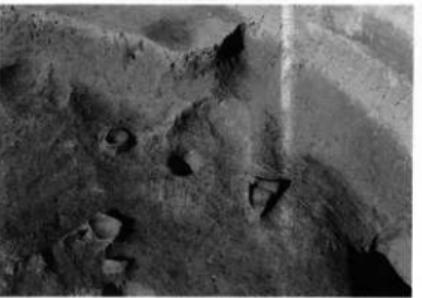
H1号住居址カマド掘り方全景（南より）



H2号住居址全景（東より）



H2号住居址掘り方全景（東より）



H2号住居址カマド全景（南より）



H2号住居址カマド掘り方全景（南より）



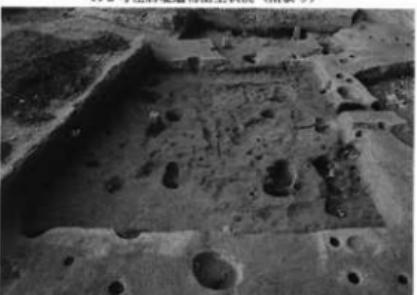
H2号住居址遺物出土状況（西より）



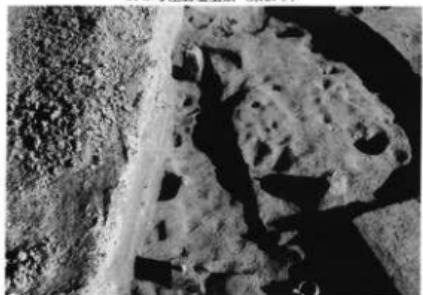
H2号住居址遺物出土状況（南より）



H3号住居址全景（東より）



H3号住居址掘り方全景（東より）



H4号住居址全景（南より）



調査区近景（西より）



H5号住居址全景（南より）



H5号住居址遺物出土状況（北より）



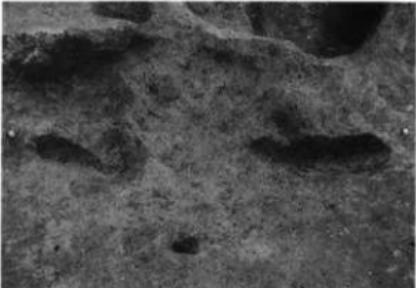
H6号住居址全景(南より)



H6号住居址掘り方全景(東より)



H6号住居址カマド全景(南より)



H6号住居址カマド掘り方全景(南より)



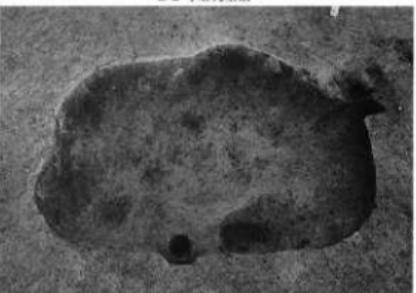
D1号土坑全景



D2号土坑全景



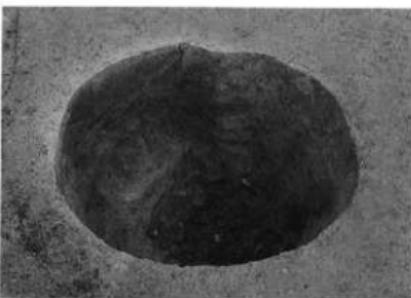
D3号土坑全景



D4号土坑全景



D5号土坑全景



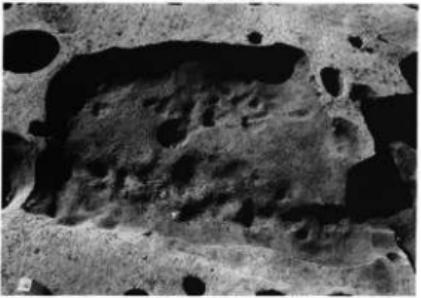
D6号土坑全景



D7号土坑全景



D8号土坑全景



D9号土坑全景



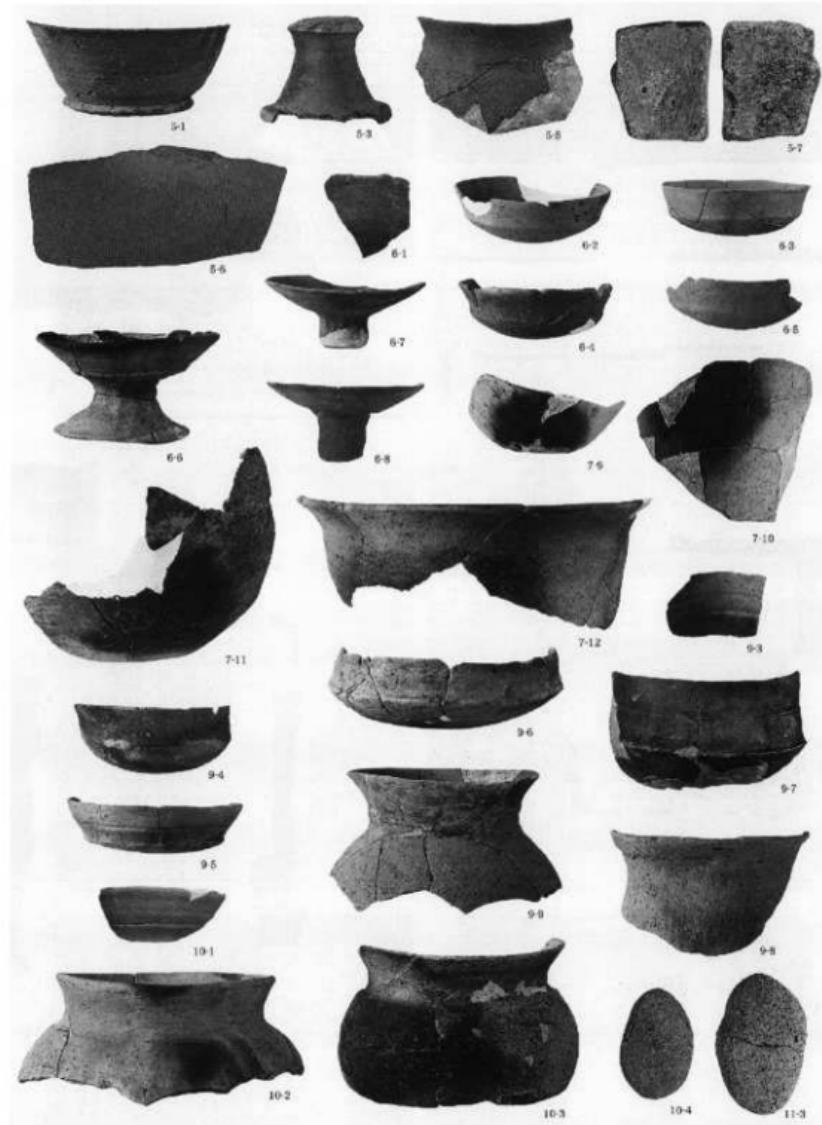
D10号土坑全景



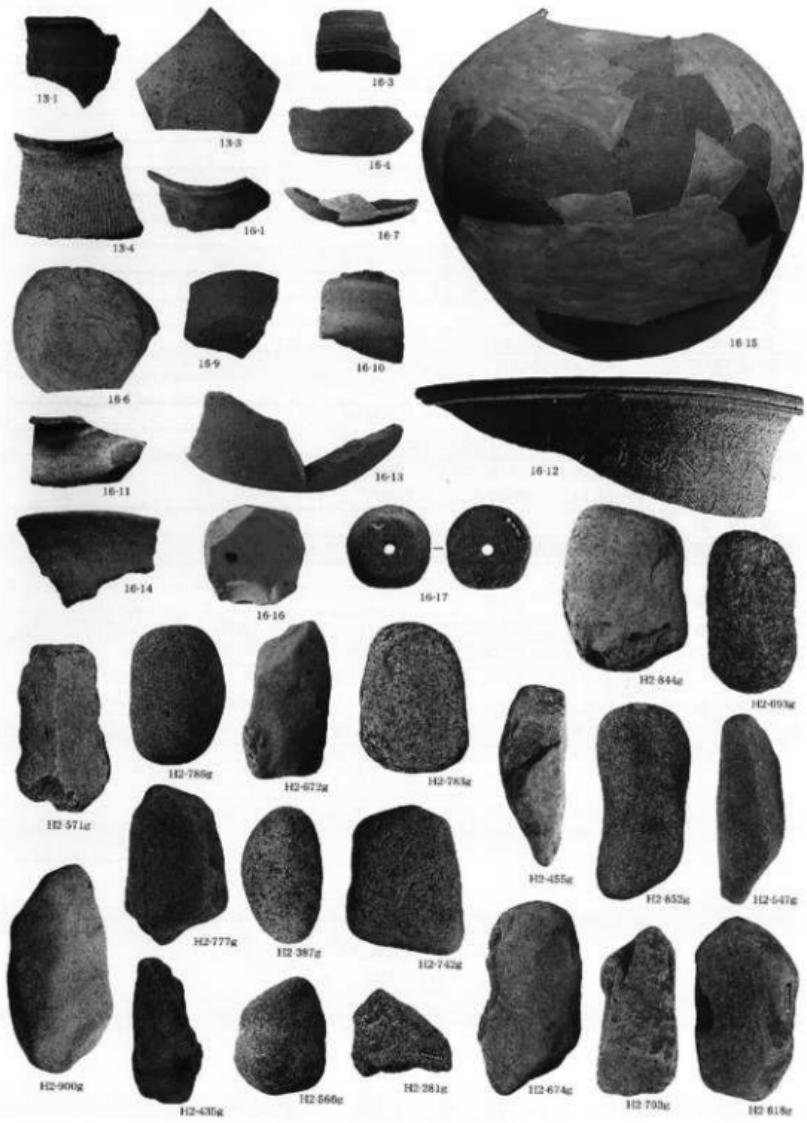
M1号溝状遺構全景(南より)



M1号溝状遺構全景(東より)



石田遺跡出土遺物



石田遺跡出土遺物

報告書抄録

| | |
|---------|---|
| 書名 | 石田遺跡 |
| ふりがな | いしだいせき |
| シリーズ名 | 佐久市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第146集 |
| 編著者名 | 富沢一明 |
| 編集・発行機関 | 佐久市教育委員会 |
| 発行年月日 | 2007.3.31 |
| 郵便番号 | 385-0006 |
| 電話番号 | 0267-68-7321 |
| 住所 | 長野県佐久市志賀5953 |
| 遺跡名 | 石田遺跡(SIS) |
| 遺跡所在地 | 佐久市志賀5942-1 |
| 遺跡番号 | 268 |
| 緯度 | 36°-15' -10." 97720 (世界測地系) |
| 経度 | 138°-30' -59." 12818 (世界測地系) |
| 調査期間 | 2006.10.30~2006.11.24 (現場) 2006.11.25~2007.3.31 (整理) |
| 調査面積 | 264m ² |
| 調査原因 | 集合住宅建設 |
| 種別 | 散布地 |
| 主な時代 | 古墳時代～平安時代 |
| 遺跡概要 | 遺構 積穴住居址6軒(古墳～平安) 土坑7基(古代) 挖立柱建物址(古代) 遺物 土師器・須恵器・陶磁器類(青磁)・石器・石製品 |
| 特記事項 | 佐久市志賀の沖積低地では初めての発掘調査となり、古墳時代からの集落が検出された。遺跡周辺に江戸期まで存在した志賀湖の位置も含め貴重な資料となった。 |

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第146集

石田遺跡

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会
 〒385-8501 長野県佐久市中込3056
 文化財課
 〒385-0006 長野県佐久市志賀5953
 TEL 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社